

6. 事業内容

第2期に契約している事業内容は以下の通り。

(ア) 職業訓練の提供及び職業訓練指導者の養成

対象者：1年目と同じ研修生および指導員候補生が中級研修に持ち上がる。2年目より新規追加研修生10人を募集（週2回：指導員候補によるOJT指導）

1. 園芸・造園プログラムを通じた技能訓練（中級）

* 園芸・造園プログラムを通じた技能訓練（中級）

1-1 日本人専門家①（造園、植木）による短期集中中級研修

（7日間×2回）（造園専門家）於：ビエンサイ 日ラオス友好桜公園にて

◆日ラオス友好桜公園造園の庭作り中級講座

ラオス日本外交樹立60周年記念に植樹された桜の木のメンテナンスも含む友好公園広場における造園技術のデザインと苗木のメンテナンス技能習得（中級）

1-2 日本人専門家②（園芸療法、実利園芸技能）による短期集中中級研修（10日間×2回）於：当会ワークショップ及び借り上げ畑

◆障害者に向けた園芸療法習得（中級）

園芸を通じた障害者のエンパワメント及びカウンセリング実施のための中級技能講座

◆ビジネス栽培技能（中級）

障害者の収入向上につながる有望な植物、苗木を種類別に、たね木の入手方法と繁殖法、栽培と管理、商品としての仕立て方、売る時期と価格の目安、荷造りなど、どのように栽培し出荷するかビジネス技能を一貫して学ぶ（中級）。

◆土壌改良技能、最新の繁殖技術の習得（中級）

自分で増やし、仕立てた植物を販売するよりセールスに特化した技能習得（中級）。1年目、2年目で習得した繁殖技術を実践。実生、挿木、接木、取木、株分けの実際技術を反復し学習する。

◆ケミカル・コントロールの技能習得（中級）

開花促進、開花抑制など、商品価値を高めるケミカル・コントロール（化学処理）や害虫駆除技能の習得（中級）

◆苗木のメンテナンス

顧客に求められるような育成方法の習得

◆商業施設に向けたガーデニング苗木のメンテナンス

顧客に求められるような育成方法の習得

◆ADDP仮想ガーデンを造園（サンプルガーデン）（中級）

ガーデニングのデザイン力実施（実施）

◆苗木販売の仮想ショップ開店（当会ワークショップにて）

◆ラオス全国に販売網を広げるためのセールスツールの完備企業へのセールス

1-3 OJT訓練期間（当会ワークショップ及び借り上げ畑）

（日本人専門家による集中研修以外の通常研修期間）

◆当会プロジェクトコーディネーターによる指導及び日々の苗木の世話やビジネスの視点から商品としての苗木、植物の育成及び販売について学ぶ（中級）

2. 製菓プログラム

対象者：1年目初級研修を修了した障害種別問わず就労にむけて意欲のあるフアパン県在住の障害当事者研修生10名に訓練提供及び職業訓練指導員計3名養成）

* 製菓プログラム中級研修（通年）

2-1 日本人専門家による短期集中研修（7日間×2回）

◆観光桜クッキー、ケーキレシピ初級の指導、衛生管理など（初級）

2-2 ラオス人指導員による短期集中研修（7日間×2回）

◆基本的な5つのレシピの反復練習、パッケージング、宣伝パンフレット、マーケティング初級講座、企業へのセールス開始

2-3 OJT訓練期間（通年）

◆当会現地スタッフによるマーケティング講習、顧客開拓セールス（中級）、クッキー製造訓練、パッケージング訓練の実施

◆ビエンチャンにてフォローアップビジネス研修

2-4 指導員候補生3名に向けたビエンチャンでの集中訓練（中級）（7日間×1回）

3. 美容訓練

対象者：1年目初級研修を修了した障害種別問わず就労にむけて意欲のあるフアパン県在住の障害当事者研修生10名に訓練提供及び職業訓練指導員計3名養成）

* 美容中級研修（通年）

3-1 日本人専門家による短期集中研修（7日間×2回）

◆基礎技術（シャンプー、カラー、セットの技能向上）指導訓練、接客マナーの習得訓練（中級）

3-2 ラオス人指導員による短期集中研修（7日間×2回）

3-3 OJT訓練期間（通年）

◆当会現地スタッフによる衛生研修、シャンプー研修、反復基礎研修の実施

◆OJTによる近隣住民へのサービスと広報を兼ねた仮想美容院の開業

◆ビエンチャンにてフォローアップビジネス研修

3-4 指導員候補生3名に向けたビエンチャンでの集中訓練（中級）（7日間×1回）

（イ）障害者就労促進セミナーの実施（年1回）

フアパン県各主要の地域において政府関係者、民間企業、教育関係者など30名を対象に障害者の就労促進と障害者のエンパワメントについてテーマのセミナーを実施

（ウ）北部近隣県への障害者就労事情調査（年3回）

年に2度、北部近隣県（シェンクワン、ルアンパバン等）への障害者就労

事情とマーケティング調査の実施

(エ) フアパン県政府カウンターパート研修（障害者就労支援施設の運営能力向上研修）

2017年3月にフアパン県障害者就労支援担当者4名に向けた1週間の本邦研修を実施する。フアパン県カウンターパートの数名を日本に招聘し、複数の日本の地方自治体及び社会福祉法人が運営する障害者就労モデル施設を見学する。フアパン県による持続可能な障害者就労支援が実現されるためにも、日本のノウハウを学ぶ機会は重要である。日本の障害者就労支援の現場を学び、フアパン県での実践に役立ててもらおう。今後、観光産業が県では大きな経済の牽引となることが期待されており、フアパン県において、障害者が経済発展の中で就労機会を得ることができ、ロールモデルとして就労自立を達成できる実績をしっかりと作っていくためにも政府の支援とキャパシティビルディングは必要であるため、本邦研修を取り入れることとしたい。(1週間 東京、滋賀、京都)

フアパン県障害者就労支援担当者カウンターパート研修

(2017年3月中旬)

- 1日目 来日 オリエンテーション（東京都内）
- 2日目 障害者小規模授産施設の見学@東京多摩地区
- 3日目 東京都の障害者雇用施策と福祉講義（都内）
- 4日目 移動（東京—京都）京都の造園関係者との会合
- 5日目 障害者の働く場の提供を実践する製菓を行う授産所の見学@滋賀
- 6日目 県が運営に関わる障害者の働く場を実践する施設の見学@京都、振り返り
- 7日目 離日

(変更の理由)フアパン県カウンターパートより本邦研修の希望が寄せられた。1年目の事業より、フアパン県知事始め県の政府高官が熱心に本事業に関わっていることから、本事業が、事業終了後に円滑にフアパン県に引き継がれ、持続可能な運営となるために、日本の造園・園芸や製菓等に取り組む地方自治体で運営されている障害者就労施設の実践を学ぶことでフアパン県の担当政府関係者の能力向上が更に見込まれ、本邦研修を事業に組み込むことは重要であると判断したため。

また、本提案事業は「持続可能な開発目標（SDGs）」の目標1「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」及び目標8「包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」に該当する。目標1、目標8の以下の細分化の項目に該当する妥当性の高い事業である。

- 1.1 2030年までに、現在1日1.25ドル未満で生活する人々と定義されている極度の貧困をあらゆる場所で終わらせる。
- 8.5 2030年までに、若者や障害者を含むすべての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、ならびに同一労働同一賃金を達成する。
- 8.6 2020年までに、就労、就学及び職業訓練のいずれも行っていない若

	<p>者の割合を大幅に減らす。 本事業は、障害者の就労機会を促進し、職業訓練を経て、あらゆる機会から取り残されがちな最貧困層に属する障害者を社会自立に導くことを目標にしている。</p>
<p>7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など</p>	<p>①これまでの事業における成果（実施した事業内容とその具体的成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回造園・第1回園芸研修生の20名のうち4名がワークショップでの研修を希望しOJTを継続している。 ・フアパン県障害者状況調査の時に話を聞いた青年の障害者が製菓OJTの販売補助（印刷物等）として製菓研修への参加を希望し現在OJTの研修生として活躍している。 ・第1回製菓研修生のうち2名が当会のワークショップで指導員候補生として起業のための技術向上とマネジメントスキルを学ぶため、OJTを継続している。他の研修生のうち数名は本人の希望では当会ワークショップで学びたいが、家庭の事情で直ぐには難しいとの事で親との話し合いを重ね、時期が来たら受け入れる事となった。ラオス北部地方はとても保守的な地域であり、まだまだ障害者の社会自立への家族の理解が進んでおらず、なかなか障害を持つ子供を外に出したげられない。教育も受けていない障害児が本当に多いことが分かった。まずは障害を持つ子の親への啓発も重要であり、ロールモデルとして社会自立を達成している障害者（ビエンチャン事業で育成された技能指導員候補生）を紹介しながら、職業能力を磨き社会自立の道筋をつけることの重要性を引き続き、村長や親に向けて熱心に説得していくことが重要である。しかし半年が過ぎて当会の活動に理解を示す近隣の村の村長もおり、サムヌア郡周辺の女性障害者が製菓研修生として当会ワークショップで研修を受けたいと家族や当事者を通じて複数の問い合わせがある。 ・造園ワークショップは現在主に日ラオス友好桜公園の苗木の初期管理でOJTを継続実施している。先日数本の苗木に花が咲き苗木を育てる喜びを感じていた。園芸ワークショップでは公園周辺の花壇などで苗木（ラオス既存の草花）を植え、育て、色の配所や配列などを学びながら繁殖技術の応用なども学びながら苗木を育てている。 ・製菓ワークショップは現在販売可能な製品作りのために製菓の大きさや形、パッケージの方法、コスト計算による販売価格の模索等でOJTを継続実施し、研修生が増えるまでの間にベースを作る事に奮闘している。 ・美容ワークショップはラオス人研修生がサムヌアに在住し起業していることもあり、サムヌアの美容院と当会ビエンサイの美容ワークショップの両方で顧客サービスを学びながらの基礎美容技術習得が行われている。ビエンチャンでの当会のN連事業でしっかりと技術が委譲され、フアパン県サムヌアで自立して美容サロンを営んでいるラオス人技能指導員は、日本のシャンプー技術が地方都市でも顧客の満足度が高いことから、実践による顧客満足度をしっかりと図り、地方都市こそ美容は起業ができることを研修生に熱心に話していた。美容研修の講師は難聴の講師で障害当事者であるが、発声による指導を試み、丁寧に初心者の方の障害女性研修生にシャンプーの基本技術の反復と衛生指導、美容院用具の説明など、自分が日本人専門家から指導された技能をしっかりと指導しているところに大きな成長とラオス人によるラオス人の技能移転がしっかりと持続可能な形で実施さ

れていることに本事業のビエンチャン及びフアパンの連携の大きな成果が見て取れた。初級研修ということで、まだカット、カラー、縮毛矯正などは高度な技術であるが、基本技術を徹底的に反復メソッドにより実践指導がなされた。

②これまでの事業を通じての課題・問題点

ビエンチャンでのプロジェクトと異なり、本事業はラオスで最も支援が行き届かなかった最北部の県という立地状況から、障害者を取り巻く環境も都市と比べて大変厳しいものがある。親の理解の欠如や、社会が保守的なことからなかなか障害者支援の事業という理解を近隣の人々に理解してもらうことにも苦労がある。しかし対話を重ね、日本のNGOの真摯さと熱心さにビエンサイ村の村民が今では当会の事業を誇りに思ってくれており、造園事業の一つの桜の育成も村民がしっかりと関わってくれており、また、当会がワークショップで作っているクッキーを村民会議に利用してくれるなど、啓発が前に進んできた。地域住民とのつながりがとても大事な地方の小さな県や村で、障害者がしっかりと社会自立ができる姿を示すことにより、社会の意識が変わっていくことをこの小さな村でも感じるためにこの事業の可能性を感じている。しかしまだまだ研修生の募集方法に多少課題があり、ラオス障害者協会やサムヌアの労働社会福祉省支所、村長組合、ロコミなど様々な方法で研修生の募集を試みているが、まだ限られたりソースのために当会の技能訓練ワークショップの存在をより多くの障害者に周知されるためにも広報活動、宣伝活動を更に行っていき、フアパン県周辺県にも声をかけて自立を望む障害者への技術移転をニーズがある限り行っていきたい。

③上記②に対する今後の対応策

フアパン県はUX0不発弾などの犠牲者である障害者人口が多く、まだまだ潜在的な技能訓練候補者でニーズがある障害者に当会のプロジェクトが周知されていないと思われるので、引き続きあらゆる広報手段を試し、ラジオ放送やパンフレット、インターネットやSMSなどを通じて障害当事者で技能を修得したい障害者の研修候補生を増やしていきたい。

④「持続可能な開発目標（SDGs）」の該当目標の視点

当会の事業はラオスの北部フアパン県におけるラオスの中でも山岳地で最も脆弱な立場の障害当事者に向けた職業訓練を提供する事業であり、裨益者は障害当事者であるために、「持続可能な開発目標（SDGs）」の該当目標8にもある「障害者を含むすべての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、ならびに同一労働同一賃金を達成する」という目標に直接に貢献できる事業であり、社会的弱者であり、健常者に比べ就労機会に制限のある地方に在住するより多くの障害者が生産的な雇用と働きがいを見い出すために本事業が、3種の職業訓練の形態を通じて、障害者の裨益者にしっかりと「働く喜び」を提供できると確信している。

8. 期待される成果
と成果を測る指標

(成果ア) 40名の研修生及び10名の技能訓練指導員候補生に技能がしっかりと移譲され、就労・起業ロールモデルが生まれる。

成果①フアパン県の若い障害者が、技能訓練を経て、就労・起業機会を得て、社会的・経済的自立を得ることができるようになるために、障害当事者の就労ロールモデルが生まれる。また育成された技能訓練各指導員は、OJTで実際に新規研修生に質の高い技術指導を行うことができるようになる。

(成果を計る指標ア)

①今年次は40名の研修生に中級の修了証明書の発行。及び技能訓練指導員候補生の指導者としての技能習得調査を行い、指導員候補生全員の指導技能力（指導法が分かりやすいか、障害に配慮しているか等総合的指導力）を研修生にアンケート調査を行い100点満点で80点以上の評価を得る。

(確認方法ア)

- ① 新規研修性への年3回のアンケート調査及び日本人専門家による技能評価判定の実施
- ② 活動記録及びデータにて確認

(成果イ) 顧客及びサポート企業数が増加する。

当会のワークショップはOJT形式で実際に顧客に対しサービスや商品売ることと同時に学ぶ研修スタイルである。事業の持続性を担保するためにも近隣の村民の顧客数、及び当事業を支援するラオス内外のCSR促進企業や商店が増え、サポート企業がラオス北部地方で5社程度になる。企業が顧客として当事業で生産された商品やサービス等を購買または連携し支援が継続される。

(成果を計る指標イ)

① 園芸・造園を通じた就労支援部門

想定顧客目標（第2期）：

販売苗木数100本、ビジネス受注数10件及び一般のラオス人顧客数30人（前年比50%増）

② 製菓プログラム部門

（クッキー販売パッケージ数 3,000 PACKAGE）前年比60%増

想定顧客：フアパン県並びに近隣県（ラオス北部）

ラオス企業数10社確保（各企業等により平均最低3万円程度の売上/月）提携中小ミニマート数、観光業ホテル及びレストラン数（前年比50%増）

③ 美容部門

（美容院、カット、カラー、ブロー、シャンプー等）

想定顧客：近隣一般のラオス人、在留外国人、年間の顧客延べ数100名（前年比25%増+）

(確認方法イ)

商店に向けた満足度アンケート等の実施（年4回。8割の満足度目指す）／新規顧客増加実績表の確認（通年）、継続支援企業からのアンケート調査（四半期に1度）

（想定データは第1期の実績（予定）を基に計算）